

新春を彩る 一人ひとりの想い

今月の表紙



東海馬事苑で乗馬を学んでいる小木陽太さん(中学3年生)。「馬の魅力は、優しく向き合うと心を開いてくれるところ。今年はさらに乗馬の技術を磨きたい」と新年の抱負を話してくださいました。



どここまで素顔に迫れる?

山村長にインタビュー

Q 子どもの頃の思い出などを教えてください。

A 実はバックパッカーをしていたことも...

小さい頃は真面目であり目立つタイプではなかったと思います。若い頃の夢は「税理士」になりました。最終的には茨城県庁で働くことを選択しましたが、就職が決まった後、1ヶ月ほどバックパッカーをしていたこともあります。オーストラリアの都市を旅しながら、いろいろな人々と交流した時間は、今でもかけがえのない財産です。

Q どうして東海村長になったのですか?

A いくつもの偶然が重なり「天命」と感じました

平成22年4月、茨城県職員だった時に東海村の副村長に就任したことが東海村との出会いです。私と同時に他の自治体に派遣された職員があと二人いたので、東海村との出会いは奇跡みたいなものですね。1年目を間もなく終えようとしていた平成23年3月に、東日本大震災が発生しました。当時インフラ復旧の陣頭指揮を執りましたが、大きな「無力さ」を感じました。その時、多くの住民の方々と向き合った経験が今でも生きています。今思えば、「東海村に出向していかったら」「東日本大震災が発生していなかったら」、東海村長としての私はいなかつたかもしれない。まさに「天命」と感じました。

東海村の良さを一言で表すと、「受け入れる懐の深さ」だと思います。優しさがあり、周りを巻き込む力がある。これが「住民力の高さ」だと思っています。

Q 激務だと思いますが、リフレッシュ方法はありますか?

A 住民の皆さんから「元気」をもらっています

村内のイベントや東海ステーションギャラリーでの展示など、なるべく時間をつくって会場に足を運び、住民の皆さんの活躍を直接見たい、話したいと思っています。昨年11月に開催された村の文化祭では、一つひとつの作品をじっくり見ていたら、一日では時間が足りず、結局毎日通ってしまいました。ランニングが好きで、勝田全国マラソン大会にも毎年挑戦しています。今年も参加を予定していますので、ぜひ応援してください!

QRコード
▲こども・
わかもの
政策

QRコード
▲産業振興
ビジョン

東海村長
山田 修

次に、今年の重点施策についてお話ししたいと思います。

一つ目は、「こども・わかもの政策」の推進です。

昨年11月に本村で開催された「わかもののまちサミット2025」では、全国の先進的な取り組みが多數紹介され、参加者同士の情報共有や意見交換が活発に行われました。このサミットを契機に、新たな取り組みにもチャレンジしていきたいと考えています。また昨年は、「こども・わかものの声をしっかりと聞き取るために、「オンラインプラットフォーム」を導入したことで、率直な意見を把握することができ、手応えを感じました。こうしたツールもうまく活用しながら、「こどもの居場所づくり」という課題への取り組みを強化していきます。特に中学校では、部活動の地域移行が進められていく中で、放課後や休日における生徒の居場所が必要であると認識しています。生徒の意見を聞きながら、施策の方向性を取りまとめていきます。

二つ目は、「産業振興ビジョン」の推進です。

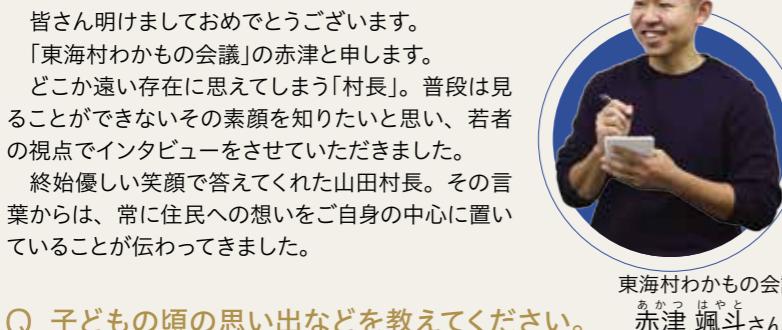
令和7年度からスタートしていますが、「これまでに、「サプライチェーン基盤の構築」や「スタートアップの創出」に向けた検討を進めており、関係者間の協議を踏まえ、今年から具体的な施策展開を図っています。村内の基幹産業から発注される大型案件の受注に向けた研究会の設立や、研究機関開発・大学発のス

東海第二発電所の再稼働問題につきましては、私自身、昨年9月の村長選挙において「再稼働は必要」と表明し臨みました。結果として、多くの村民の皆さんから負託を頂いたものと受け止めています。一方で、事業者による安全性向上対策工事は、鋼製防護壁工事の施工不良に伴う原子力規制委員会との協議が続いておりますので、引き続き、今後の動向を注視していきます。また、今年は避難訓練を実施したいと考えています。これまで、地域ごとにガイドブック等を作成し、いざという時に、村民の皆さまが適切な避難行動が取れるよう、周知徹底に努めましたが、やはり実際に体験をしてもらうことが重要であると考えています。今後は、訓練内容等を整理していくので、多くの村民の皆さんに参加していただければと考えています。

今年が皆さんにとって良き年となりますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

タートアップ企業の創出を促進する支援策の基本構想策定などに取り組んでいきます。

三つ目は、「生活者支援」です。昨年12月に、エネルギー・食品価格等の物価高騰対策として、地方自治体向けの重点支援地方交付金の拡充が示されました。本村としては、国の推奨事業メニューなども参考にしながら、村民の皆さまの生活を下支えするよう支援策ができるだけ早期に実施していただきたいと考えています。また、生活環境におけるさまざまな課題への対応も急務であると認識しておりますので、生活者目線に立った施策の在り方についても検討しているところです。



東海村わかもの会議
赤津 輝斗さん

Q 子どもの頃の思い出などを教えてください。

A 実はバックパッカーをしていたことも...

小さい頃は真面目であり目立つタイプではなかったと思います。若い頃の夢は「税理士」になりました。最終的には茨城県庁で働くことを選択しましたが、就職が決まった後、1ヶ月ほどバックパッカーをしていたこともあります。オーストラリアの都市を旅しながら、いろいろな人々と交流した時間は、今でもかけがえのない財産です。

Q どうして東海村長になったのですか?

A いくつもの偶然が重なり「天命」と感じました

平成22年4月、茨城県職員だった時に東海村の副村長に就任したことが東海村との出会いです。私と同時に他の自治体に派遣された職員があと二人いたので、東海村との出会いは奇跡みたいなものですね。1年目を間もなく終えようとしていた平成23年3月に、東日本大震災が発生しました。当時インフラ復旧の陣頭指揮を執りましたが、大きな「無力さ」を感じました。その時、多くの住民の方々と向き合った経験が今でも生きています。今思えば、「東海村に出向していかったら」「東日本大震災が発生していなかったら」、東海村長としての私はいなかつたかもしれない。まさに「天命」と感じました。

東海村の良さを一言で表すと、「受け入れる懐の深さ」だと思います。優しさがあり、周りを巻き込む力がある。これが「住民力の高さ」だと思っています。

Q 激務だと思いますが、リフレッシュ方法はありますか?

A 住民の皆さんから「元気」をもらっています

村内のイベントや東海ステーションギャラリーでの展示など、なるべく時間をつくって会場に足を運び、住民の皆さんの活躍を直接見たい、話したいと思っています。昨年11月に開催された村の文化祭では、一つひとつの作品をじっくり見ていたら、一日では時間が足りず、結局毎日通ってしまいました。ランニングが好きで、勝田全国マラソン大会にも毎年挑戦しています。今年も参加を予定していますので、ぜひ応援してください!



初めて自分の 干支に出会う年



これから12歳を迎える小学5年生に
一人ひとりの想いがよく表れています。
新年の抱負を書いてもらいました。
今年、皆さんのが抱負を達成できるように
応援しています。

内各小学校の5年生から、抽選で選ばれた
24人が画用紙に書いてくれた新年の抱負。

初めで自分の 二〇二六

